

今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2015年3月)

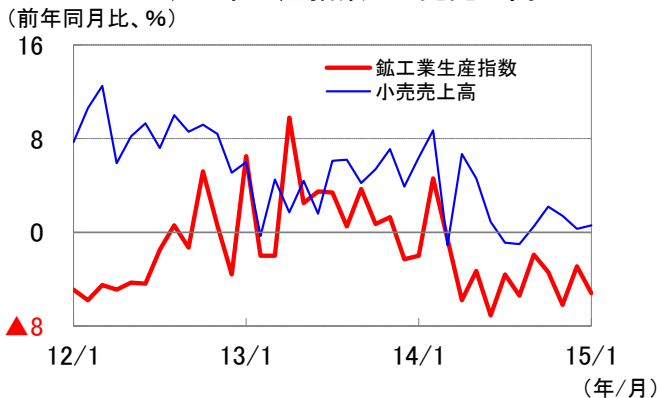
輸出回復、企業・消費者信頼感の改善がカギ

ポイント1 生産、消費の低迷が継続

利上げや外需の弱さが影響

- 1月の鉱工業生産指数は前年同月比▲5.2%と、2014年3月以降11カ月連続のマイナスになりました。また、同月の小売売上高は同+0.6%と伸び悩みました。利上げや外需の弱さが影響し、生産、消費ともに低迷しています。
- 2月の輸出は同▲24.1%と、2014年8月以降7カ月連続のマイナスになりました。中国向け(全体の約11%)が1月、2月合計で前年比▲42.7%と大きく落ち込むなど、外需は全般に弱い状況です。

鉱工業生産指数と小売売上高



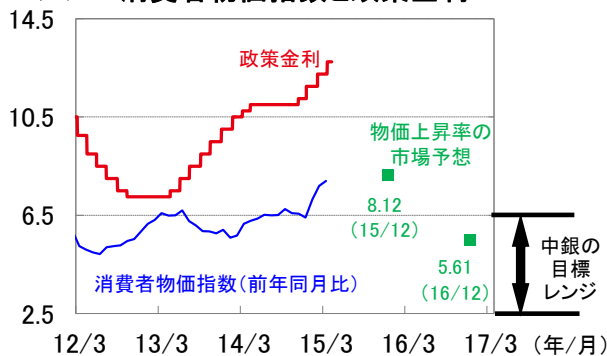
(注) データは2012年1月～2015年1月。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 中銀は利上げを継続

物価高を警戒

- 3月前半の消費者物価指数は、前年同月比+7.90%となりました。電力、燃料、食品が主な押し上げ要因です。政府は、財政再建のために電力会社などへの補助金を削減し、公共料金の値上げを認める方向にあります。こうした政策は、物価を高止まりさせる要因の一つです。
- ブラジル中央銀行(以下、中銀)は物価高を警戒し、昨年10月から3月まで4回連続で政策金利を引き上げています。中銀は、次回会合(4月28日～29日)でも政策金利(現行12.75%)をさらに引き上げると見込まれています。

消費者物価指数と政策金利



(注) 政策金利は2012年3月1日～2015年3月24日。
消費者物価指数は2012年3月～2015年3月(2015年3月は月前半)。
消費者物価指数は前年同月比の上昇率。
物価上昇率の市場予想は、中銀が3月23日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 通貨安による輸出増加、企業・消費者心理の改善に期待

- 難しい経済情勢、増税などによる財政再建策、石油公社を巡る汚職問題などから、ルセフ政権への支持率が大幅に低下しています。3月半ばに反政府デモが全国的に発生したこともあり、政府は罰則強化などを盛り込んだ汚職対策法案を国会に提出するなど、国民の不満解消に取り組んでいます。
- 中銀は、今年の経済成長率が潜在成長率を下回ると予想しています。世界経済の拡大や通貨安効果による輸出増加と、企業や消費者の信頼感の改善による経済活動の活性化に期待しています。政府の汚職対策や財政再建などにより政治不安が後退し、企業や消費者の信頼感が改善することが期待されます。

ここもチェック!

2015年03月11日 ブラジルレアルの最近の動向と今後の見通し
2015年03月05日 ブラジル中央銀行が4回連続の利上げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。